

日本共産党だけはこれまでも反対

こんな時に

教員定数を減らすなんて！

密を避けるためにも

6月3日の臨時県議会で、県立・私立学校のタブレット（ひとり1台）などの予算が提案され、「遠隔授業に向け研修しており、アドバイザーを派遣する」などの説明を受け、これには賛成しました。

えんど久子県議は「子どもたちへきめ細かな配慮をし、教室の密を避けつつ学習を保障しなければならぬ。ICT化も必要だが、3ヶ月もの休校後、学校現場の課題は山積しており、少人数授業や教職員の増員が必要だ」と教育長の見解を問いました。

今こそ少人数学級を

教育長は「30人学級を小中学校全学年に拡大すれば、総額で30数億円の人件費が必要だ。400以上の教室が新たに必要となり、早急な整備は困難だ。引き続き国に要請したい。国の第2次補正予算案で、今年度限り小6と中3を少人数編成にするための加配も計上されている」などと答弁。

教員増員は難しいと教育長

これに対し「国の第2次補正では10校に9校は加配なしだ。国に求めるとともに、県独自でも教員やカウンセラーなどの増員を。子どもたちの心のケアが必要で、今こそ少人数学級を」とえんど県議。教育長は「教職員の定員を確保できない状況もあり、増員は難しい」との答弁に終始しました。



写真は、6月3日の大分県議会で質疑するえんど久子県議。

定例県議会では堤栄三県議（大分市選出）が、6月24日に教育や中小業者支援について質疑。7月1日には、教員定数削減の条例改定などに反対討論します。

教員を10万人増やそう

そんな中で、大分県は教員定数を削減する条例改定案を6月16日からの定例県議会に提案。小学生の人数は減っているものの、特別支援学級が増えたことや産休代替を4月から配置したことにより、小中学校の教員定数は7人増ですが、県立学校で49人減、全体で42人のマイナスです。毎年6月県議会で教員定数削減の条例改定が提案されます。これに反対したのは日本共産党だけです。

日本共産党は「学校再開にあたっての日本共産党の緊急提言」を発表。①教員10万人増員など教育条件の抜本的整備のため、教員免許更新制の凍結などを行う②子どもの実態に応じた教育のために学習指導要領を弾力化する、などを提言しています。今後とも力をあわせてがんばりましょう。

日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

TEL・Fax 097-537-2344

No. 41

2020.6.20.

日本共産党 えんど久子県議らが求めてきた

PCR検査 1日264件に

PCR検査センター16ヶ所に

えんど県議ら日本共産党は、PCR検査や感染者受け入れ体制の充実などを求めてきました。別府・由布・日田・中津の各市内のPCR検査センターについて、近隣の市町村も対象とし、県の委託事業として実施するため、医師会と協議中です。これまでなかった佐伯市にも設置の方向です。中核市である大分市を含めPCR検査センターは県内6ヶ所となる見通しです。

PCR検査機器を購入

各保健所やPCR検査センターで採取した検体を大分県衛生環境研究センターに運び、陽性か陰性かを判定します。この検査体制も充実されました。当初は1日28検体の処理能力でしたが、農林や食品の職員16名の応援態勢をとり、PCR検査装置などを増やしました。

大分市は独自に判定検査ができますが、これを含めると県下で1日264件のPCR検査が可能になりました。

受け入れベッド258床に

感染症の受け入れ病床は、当初県内8つの指定病院で40床でした。その後、協力病院を増やし25の病院で258床の受け入れが可能に。

日本共産党は、医療・介護・福祉関係者に積極的にPCR検査を、と国会で求めています。

お休みの日の保育料が 戻ってきます

コロナの自粛で保育園を休んだ場合、認可園では日割りの保育料です。ところが認可外の一部の子どもについては、休んだ日の保育料も保護者や保育園が負担していました。日本共産党県議団は、この不公平をなくすよう申し入れで求めてきました。

これに対し、県が保育料を助成し、認可園と同じように保護者負担なしにすると回答がありました。



「授業わからん 宿題多すぎる～」と子どもたち

6月11日、新日本婦人の会のみなさんが、教育条件の改善を求め、大分県教育委員会に要望書を提出。

ママ達が口々に「『1コマに3コマ分の授業が入って全然わからん。分散登校の時は人数がクラスの半分でわかりやすかった』と子どもが言っている」「先生達が教室の消毒もして過重労働だ」「1人では目が行き届かない。補助の先生を」「宿題が多過ぎてパニックになってしまう」など、リアルな状況を訴えました。